

目 次

まえがき v

序 章 文法のインターフェイスとは何か…………… 1

第1章 音韻論と形態論のインターフェイス…………… 7

- 1.1. 生成音韻論 8
- 1.2. 複合語の強勢と名詞句の強勢付与 13
- 1.3. 音節構造と音節量 14
- 1.4. 混成語と主要部 16
- 1.5. 音韻変化と形態構造 18
 - 1.5.1. 連濁と形態構造 18
 - 1.5.2. 標準アメリカ英語の [t] / [d] 削除と形態構造 22
- 1.6. 語彙音韻論 23
 - 1.6.1. 音韻論と形態論の関係 23
 - 1.6.2. 語彙音韻論の枠組み 27
 - 1.6.3. 語彙層の数について 32
 - 1.6.4. 順序付けのパラドックス 40
 - 1.6.5. 音律音韻論 44

第2章 音韻論と統語論のインターフェイス…………… 61

- 2.1. wanna 縮約 62
- 2.2. 助動詞縮約 (Be 縮約) 64
- 2.3. 重名詞句移動と音韻論 83
- 2.4. A-An Alternation Rule (不定冠詞交替規則) 85

2.5. Liaison in French (フランス語におけるリエゾン)	90
2.5.1. リエゾンの基礎と生成音韻論と CV 音韻論	90
2.5.2. 文レベルのリエゾンと格理論	93
第3章 音韻論と意味論・語用論のインターフェイス	101
3.1. 音韻規則適用と意味論との関連性	102
3.2. 音韻規則適用と強勢・焦点付与	110
3.3. 音韻規則適用と語用論との関連性	119
3.3.1. 文にまたがる音韻規則と語用論	119
3.3.2. 音韻規則適用と休止	126
第4章 形態論と統語論のインターフェイス	129
4.1. 単語の性質と構文構成の関連性	130
4.2. 第1姉妹の原理と動詞由来複合語	133
4.3. 単語と構文構築の制約	137
第5章 形態論と意味論のインターフェイス	143
5.1. 単語の選択制限に関わる意味素性	144
5.2. 単語のレベルの意味素性の連続による制約	148
第6章 統語論と意味論のインターフェイス	153
参考文献	161
索引	171